

# これまでの子ども・子育て会議における 委員発言概要

令和6年(2024年)7月17日  
健康福祉部



# これまでの委員発言概要（進め方・枠組み関係）

## 令和5年度第1回子ども・子育て会議

- 県庁内で職員同士が今後の子育て政策をせめて5時以降にでも議論できるくらいの余裕を作る必要がある。幹部の方で、止めることができる事業は思い切って止めて、本当に力を入れなければいけないところに力を入れる状況作ってもらいたい。
- 人口の減っている地域の保育園は取り合いになっている。現場を見ていただきたい。

## 令和6年度第1回子ども・子育て会議

- こどもの発達段階に応じた支援と結婚・妊娠・出産・子育ての支援の2つのラインを想定すべきではないか。
- 県庁内での意見集約、無理やり感ないようにして。
- 市内の声ばかり聞かないで地域の格差・実情も意識して。
- この計画策定にあたっては地域に関わってもらうことが大事。
- 指標も検討されたい。また、国のこども大綱の目標が低いものがあるので、より意欲的な目標設定を検討されたい。
- この会議には肝心のこども・若者の代表がいない。この計画策定にあたっては、こどもに意見聴取するだけでなくこどもの代表がこういう会議に出るといい。
- 支援を受けている者や支援者のうち、いきいきと子育てをしている方の例を入れるといいのではないか。
- 小さなコミュニティの場合は、関係を作って事業に横ぐしを刺せばできることが多くあることにも留意されたい。
- 子育てはまちづくりも絡む話なので、都市計画や建築環境学会の専門家にも話を聞くといい。
- 経営者の悩みも聞いていただきたい。
- 県庁内だけでなく、他の自治体の首長や人事担当部署の意見も聞いてほしい。

## これまでの委員発言概要（目指すべき熊本像関係）

### 令和5年度第1回子ども・子育て会議

- こどもまんなか熊本の理念について、優先順位やメリハリをつけるべきではないか。
- こどもを持たない人も含めて、一人一人が子育てを支えていく、又は子育ての意識を持つ、子育ての社会化が必要。

### 令和6年度第1回子ども・子育て会議

- 理念のポンチ絵が子育て中の者が中心となっているが、こどもまんなかという以上は、こどもを中心に据えるべきではないか。
- こどもが熊本を一旦出てもまた戻ってきたいと思えるといい。熊本で学び育って子育てする良さが感じられるようにしてほしい。熊本ならではの施策の工夫を。
- 九州男児と言われるが、男の意識改革をしていくべき。
- 不登校が多いと聞く。こどもたちにとって今はとても生きづらい社会なのではないか。信頼に足る社会を目指していきたい。
- こどものためということを頭に置いておくのが大事。保護者まんなかではなく、こどもまんなかであると明確にして。
- こどもがキラキラ輝くことを目指すなら、保育士も保護者もわくわくどきどきできるようにしないといけない。そこが全部連動してこそ「こどもまんなか社会」といえる。

## これまでの委員発言概要（総論関係）

### 令和5年度第1回子ども・子育て会議

- 7年間で23%減の少子化の状況を懸念。

### 令和6年度第1回子ども・子育て会議

- 労働環境に関する意見が多い。
- いずれこどもを持ちたい、こどもはかわいいというプラスのイメージを持ってもらうためにはこどもの頃から自分より小さなこどもと触れ合うのが大事。
- こどもまんなかというなら、保育園に遅くまで預けるときに、保護者はスタッフにお詫びするのではなくこどもにありがとうを言うのがいい。
- こどもに意見表明権があることをこどもにも大人にも周知されたい。
- こども施策に関する意思決定過程へのこども・若者の参画を進めていただきたい。
- こどもを支える人を支えるのが大事。
- こどもの最善の利益を考えるなら環境整備が大事。
- 親の学びを重視していただきたい。
- せっかく国や自治体が施策を打っていても現場に届いていないこともある。どんな施策があるかを発信するのが大事。
- 倒産が数年ぶりに全国で単月で1000件を超えた。その中には人手不足を原因とするものもあるが、TSMCの進出以来、熊本では人の取り合いになっている。職場環境づくりがいっぺんにはできないところがあるが、そうした企業も人手不足にならないように人が辞めないように少しずつ職場の環境づくりをやっていこうとしていることに理解いただきたい。
- 基本的な方針としては、こどもや若者、子育て当事者の視点を重視し、その意見を聴き、対話しながらともに進めていくという方向でお願いしたい。

## これまでの委員発言概要（各論関係 1）

### 令和5年度第1回子ども・子育て会議

- 保育士就学資金の貸付が認定こども園等も対象であることを養成校などに説明されたい。
- 養成校が3～4年のところもある中で、保育士就学資金（2年）の期間を延ばすことを検討されたい。
- 再就職支援や就職説明会に力を入れて、想定年収の25～40%をとる有料職業紹介事業者をなるべく排除されたい。
- 自ら考え自ら行動するこどもになれるように「こども主体の保育」について義務教育課と一緒に研修をしており、今後も義務教育課と研修を行っていきたい。
- 幼保小の連携が取れていったらいい。少しでも助成があれば広がるし、子どもたちのスムーズな成長につながっていくのではないかと。教育委員会と福祉がお互いに歩み寄るといい。
- こども誰でも通園制度について、産後鬱になるお母さんを一人でも救えるよう、自治体の持ち出し分が少しでも軽減されるよう、検討していききたい。
- 現場が多くを事業をどのように利用していったらいいのか、利用できるのかを知らないで、福祉や教育という部門を超えて横の連携をとって、組み立ててこどもの成長を支援するためにコーディネートする人が必要。

### 令和6年度第1回子ども・子育て会議

- 病気的时候は病児保育も大事だが、保護者が休めるようにして。
- こどもが病気や参観的时候に職場で父親側に対して帰らなくていいのと声をかけてもらえるようになるといい。母親の負担が減って、こどもとの関係性も改善され、父親にとっても学ぶ機会にもなり、よりよいこどもまんなかになるのではないか。
- 配置基準の見直しがあるといい。
- 出産費用は保険適用且つ出産育児一時金の差額支給の現行通りが熊本の場合が一番いい。
- いじめ、暴力、ハラスメント、貧困、ヤングケアラーなどで、声を上げられないこどもたちが安心して相談ができ、権利を侵害されて苦しんでいるときに意見を聞いてもらって救済できる仕組みを熊本県でしっかり作っていただきたい。
- こどもの成長において、0～2歳がカギであり、しっかり投資して欲しい。国のはじめの100か月育ちのプランが大事。
- 出産後のネウボラのようなものが充実すると産後うつや虐待も減るのではないか。
- 特別な配慮が必要な子を見ることになるとう人手不足になりがちであることに留意して。
- こどもにとっては母親が大事であり、母親が早く帰れる環境を作っていただきたい。
- 誰でも通園制度で母親を助きたい。
- 延長保育は1人いても保育士2人必要であることをちゃんと踏まえた施策にしてほしい。
- 幼保小連携が大事。小学校が楽しいと言ってくれる卒園生が増えることを願っている。